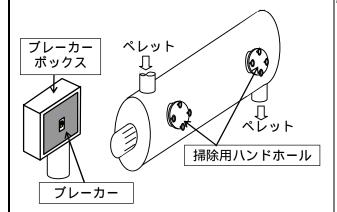
タイトル	樹脂結晶化装置の清掃作業	区分	- C -
		No.	19

従来のシステム

(図)



[作動状況説明]

樹脂のペレットを結晶化させる装置は、銘柄切り替え 毎に内部の清掃を行う必要がある。この場合下記の手 順で行う。

内部回転翼の電源を遮断するため、ブレーカーのス イッチをOFFにする。

ブレーカーボックスに「掃除中、操作厳禁」の札を 掛ける。

掃除用ハンドホールを開いて内部の清掃を行う。

[危険要因、問題点]

ブレーカーのスイッチをOFFにする、あるいはスイなし ッチボックスに「掃除中、操作厳禁」の札を掛けるの を忘れて清掃作業を行っている時に、他者が清掃作業 に気付かず誤ってブレーカーのスイッチをONにして 内部回転翼を起動させる可能性がある。

〔事故事例〕

タイトル 樹脂結晶化装置の清掃作業 No. 19

「安全確認型」システム

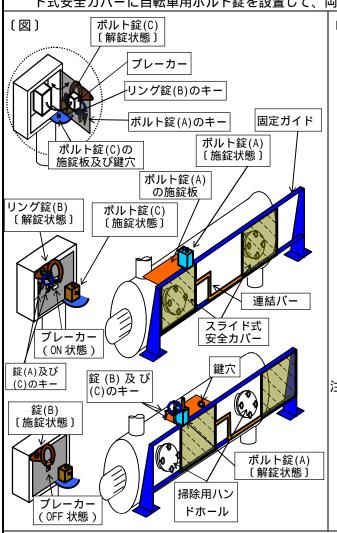
[安全の保証条件、保証の仕方]

結晶化装置のハンドホールを開く前に内部回転翼の電源が遮断されていることを保証するため、ブレーカーのスイッチを OFF にして ON 出来ないようにロックしないとハンドホール前に設置されたスライド式安全カバーを開くことができないようにする。

結晶化装置の運転を行う前にハンドホール前のスライド式安全カバーが閉じられてロックされていることを保証するため、安全カバーを閉じてロックしないとブレーカースイッチのロックを外して ON することができないようにする。

〔方式・手段〕

電源回路のブレーカー操作部に自転車用リング錠を設置するとともに、ハンドホール前に設置したスライド式安全カバーに自転車用ボルト錠を設置して、両方のキーを鎖等で一体化する。



〔安全対策の説明〕

結晶化装置のハンドホール前にスライド式安全カバーを設置する。

自転車用ボルト錠(A)を固定ガイドに設置する。

安全カバーが閉の時にはボルト錠(A)を施錠できるが少しでも開くと施錠できない位置に鍵穴を設けた施錠板を安全カバーに設置する。

ブレーカーの操作部がOFFの時には施錠できるがONの時には操作部の突起が邪魔になり施錠できない位置に自転車用のリング錠(B)を設置する。

ブレーカーを OFF にしないと電源ボックスの扉を開くことができないようにするため、扉に自転車のボルト錠(C)を設置するとともに、扉が閉のときしか施錠できない位置に鍵穴を設けた施錠板をブレーカーボックス本体に設置する。

注)ペンチやニッパー等が常備されている作業場では 3本の鍵を結合させた鎖を切断される可能性があ るので両方のカバーのキーを下図のように溶接す る。



[残存リスク]

予備キーを用いるとブレーカーを ON にした状態で安全カバーを開くことができる。

対策:保管責任者を定めてブレーカー及び安全カバーに取り付けた錠の予備キーの管理を厳重に行う。